

**9 月 23 日の授業への RP について**

2022 年 9 月 30 日

※以下で紹介する RP の内容は、適宜、短縮したり補足したりしてある。

※同趣旨の RP が複数ある場合にも特に断らずに紹介している。

**調査の限界など**

1. 政治家の政策意見データの収集について…支持率調査の時に各新聞社で支持率が若干異なるのと同様に質問の方法や選択肢の作り方などを変えると回答も異なってくるのではないと思った。

確かに、一般に、調査項目で同じような内容を尋ねていても、質問文や選択肢の設定が異なっていると回答が異なりうる（計量政治行政分析Ⅰでも説明した）。この授業で扱っている項目の中でも、質問文を少し変えると回答が異なりそうなものもある。例えば「辺野古移設」の項目は、辺野古移設は「やむをえない」という命題への賛否を問うているが、これを「積極的に進めるべき」にすると回答が変わりそうである。

2. 政策意見の項目を見ても、簡潔にこうするべきだということしかなく、内容がつかみづらく何が争点になっているのかがわかりにくいと感じた。

確かにこの授業で扱っている東大朝日政治家調査での政策項目は、命題への賛否など、単純な回答を得ようとするものである。この際、質問文で詳細な説明がなされているわけでもない。一般に調査票調査では、回答者に与える負担を軽減することが望ましいとされており、東大朝日政治家調査もこのような方針をとっているため、調査項目での質問も回答選択肢もシンプルになっているのだと考えられる。その反面、回答者の思考が複雑なものであっても、そういった情報の豊富さは残念ながらデータには反映されないことになる。要するに一長一短と言える。関連して、下の 2 つの RP も参照。

3. 政策争点としては、「同性婚」等の一般のひとでもわかるような項目がある反面、「財政均衡先送り」等の多少の前提知識がなければ分からないものもあった。そのため、ただ表を掲載するだけでなく、国民に政策意見を正確に伝えるためには補足情報の付け加えが必要ではないかと考える。

ご指摘のとおり、これらの調査項目にはそれぞれに、背景となる状況・文脈があるのだが、それは説明しなくても共有されている、という前提で尋ねられているように思われる（他の RP で、これは政治家が対象だからだろう、という意見もあった）。こうした背景の理解がないと各項目で得られたデータが意味するところを理解しづらいだろう。他方で私の経験からすると、授業内でそれぞれの政策について丁寧に説明し始めると相当な時間がかかったりしそうである。。受講者の皆さんにおかれては、この授業では、ひとまず授業内で説明する内容を理解しておいてもらえるとよい。一般には、マスメディア等の報道などに触れることを習慣にすると、政策に関する情報・知識も得やすいと思われる。

4. 現代の重要な政策争点について、すべて質問できているわけではないというのが、残念な部分ではありますが、例えば、白紙の部分を作って、候補者自体が他で重視すべきと考える争点についての意見を述べるなどの

欄があればよいのではないかと思います。

鋭いご意見である。一般に調査票調査では、質問する側の意図で「何を尋ねるのか」「どういう選択肢を設けるのか」に制約がかかることが多いが、自由回答という形式はこの制約を緩めるのに貢献しうる。

実は東大朝日政治家調査で、「重視する政策」を、選択肢を設けて尋ねていたが、このうち「その他」を選択した人は自由回答ができた。この内容を見ると、例えば「NHK 受信料問題」と回答した候補者がいた。

また、新聞社のアンケートでも、例えば知事選挙の候補者に対するものでは、ある命題に賛成か反対かだけではなく、政策意見を比較的自由に文章で記してもらうこともある。こうした情報は、候補者の思考を深く理解するには役立ちそうだが、系統的な比較には不向きである。要するに一長一短と言える。

### 関心を持った政策項目

5. 調査の項目で私の関心があるものは同性婚や LGBT 法である。このような性に関することについて、日本は海外に比べて偏見も多く、このような問題に対して腰が重い。私からすれば、そのような日本の雰囲気は古いように感じる上、そのような偏見を抱いている人に対して逆に偏見をもつ。100 人居れば、100 人それぞれが異なる人なのだから、日本でも同性婚や LGBT 法を積極的に進めてほしいと思う。
6. 私が興味ある内容は同性婚と LGBT 法です。なぜ私がこの内容に関心があるかというと、私が高校生の頃に身近におそらく当てはまる方が多くいたからです。世の中に LGBT の方がいるのはもちろん理解していましたが、こんな身近に見えると思わなかったのととても驚きました。しかし、その方たちは隠す様子もなく、ありのままに生きていてとても幸せそうでした。身近でみてきたからこそ、LGBT についての偏見がもつとなくなる世の中になって欲しいと思っています。LGBT についていくら考えが広がっても、今日も法律によって婚姻ということは出来ないままです。最近ニュースで、同性愛者の方がどうしても家族になりたいため、パートナーの養子になり法的に家族という形になったというのを見ました。そのようにしなければ、男女で家族になる時と同じようにできないのはおかしいのではないかと思います。同性婚を認めれば少子化が進む可能性があったり、婚姻は男女であるものという考え方が浸透しているため偏見が消えなかったりなど、たくさん問題も正直あると思いますが、多くの人が生きやすい世の中になって欲しいです。

他にも同様の RP があった。日本の現状では、法的に同性婚は認められず、LGBT などの人々がいわゆる異性愛の人々と同等に社会的に受け入れられているとも言いがたい。同性婚などが認められることを望む人々はいるにもかかわらず、なぜこれらが進まないのか（反対する人はどのような考えを持っているのか）も深く検討する価値がありそうである。

7. 政策争点を見的过程中で、沖縄県の辺野古移設の項目があった。夏休みに沖縄に行く機会があつて実際に基地の埋め立て作業をしているところを見た。現地の人たちが、埋め立てる砂を積んで入ってくるトラックに対して、立ちふさがって抵抗する姿を目の当たりにし、とても心が痛んだ。
8. 私が特に興味をもったのは、辺野古移設問題です。私は高校生の時、修学旅行で沖縄に行き、そこで泊めていただいた民家の近くに飛行場があり、昼でも夜でも隣の人の声も聞こえないような騒音が響いていて、この問題を身近に感じました。確かに沖縄に米軍基地があることで、周辺国への威嚇になっていることは間違

いがないですが、沖縄だけにこの負担を押し付けていいのかとても難しい論点だと思います。  
辺野古移設問題について、それぞれご自身の経験をもとに意見を述べてもらえて、好ましいと思う。

### この1年で政策意見を変化させた要因？

9. 政治家の思想やデータの変化は、社会情勢の変化が関係していると考えます。ウクライナ侵攻のような国防に関連する出来事が社会で起きれば、防衛力強化に対する意見が従来のものから変化する、というようなことがあるのではないだろうか。
10. 2021 年と 2022 年の1年で変化があると思う項目は、「防衛力強化」です。ウクライナとロシアの戦争が要因となっていると考えます。何倍もの軍事力を持つロシアに攻められるウクライナを見て、自国を守る力が大切であると改めて感じる人が増え、数値に変化が現れるのではないかと思います。
11. 防衛力強化は、以前は…。しかし、ロシアの軍事侵攻を鑑みると、「防衛力強化」に含まれる意味合いが少し変わったように思われる。それまでの自衛権や日米安保の問題はそのままに、日本の竹島、尖閣諸島、北方領土といった先送り状態にある外交問題への危機感を含んだものになったのではないかと思います。

これらの RP は、2022 年に生じたロシアによるウクライナへの侵攻が、防衛力強化に関する政策意見に影響した可能性に言及してくれている。最近の世界情勢を踏まえて考えてくれてよいと思う。なお、私も同様の印象を持っている。

12. 政策意見の項目として興味があったのは、「防衛力強化」の項目です。…気になった理由は最近の日本を驚かせた、安倍元総理の銃撃事件です。…(日本は治安がよいと思われてきたが)海外に一步出ればいまだ戦争のような交戦が続いている場所があることを忘れてはならず、日本もいつかのために備えなくてはならない時が来るのではないかと思います。

このご意見は、戦争になればいつ誰が銃撃されるかわからないような状態になるので、防衛力強化が重要になる、といった趣旨であろう。このご意見からすれば、安倍元首相の銃撃事件も、この 1 年の間で人々の意識を変えた事件の 1 つと言えそうである。

### 候補者全体と当選者との間の、政策意見のズレ

前回、トピック 2 の図 5 など、各政策項目での賛成割合が、候補者全体と当選者とで異なっている場合があることを示していた。これが何を意味するのかについて RP に書いてくれた方々がいた。以下はその一部である。

13. 「防衛力強化」は賛成割合が候補者全体より当選者の方が多く、目に付く程度に差もあった。はっきりとした理由は考えてもあまりわからなかったが…政党としての公約が反映されているかもれしなかった。例えば、自民党は防衛力強化を公約に掲げているため、自民党からの立候補者は自民党公約に則り同項目などに賛成するだろう。そして、自民党の候補者であるからという理由で当選することもあるかもしれない。

このご意見は、「防衛力強化」を例に、(1)自民党候補者には「防衛力強化」に賛成する者が多い、(2)自民党候補者は当選しやすい、(3)結果として当選者の中では「防衛力強化」に賛成する者が多くなる、とい

う説を述べてくれている。同様の説を他の方も述べていた。この説について、トピック 3 の中で扱いたい。

14. 候補者全体と当選者との間で賛成割合が異なるのは、当選者の割合の方がより世論を反映しているからだと考える。候補者は、各政党から出馬している政治家の数も意見も異なるが、当選者の賛成割合は世論の賛成割合に近いものではと推測する。
15. 候補者全体と当選者との賛成割合が異なることに関して、投票者に賛成という意見が多ければ、当選者の賛成割合が多くなり、逆に投票者に反対という意見が多ければ、賛成割合が低くなるというようなことだと考えました。

これらの RP は、候補者全体の意見より当選者の意見の方が、有権者ないし世論の意見に近いものになっているはずだ、という説だと理解できる。同様の意見を多数の方が述べていた。この説についても、トピック 3 の中で扱いたい。

#### 政策項目の各グループの共通点？

前回、トピック 2 の最後に、政策項目のいくつかを第 1、第 2、第 3 グループとして分けて示した。このそれぞれのグループの項目の共通点などに言及してくれた RP が多数あった。これらについてはトピック 3 の中で言及する。

#### その他

16. (政策意見の分布を示すとき)円の大きさは直径が分からなければぱっと見ではわかりにくいので、度数分布表などを添付した方が見やすいのではないかと考える。

これはトピック 2 で自民党候補者の「防衛力強化」での度数を円の面積で示していたことに対する意見である。ご指摘はよく理解できる。今回、政党別の度数分布を表すグラフなどを示す。

17. 表 1 での「有効回答率」とはなんですか？「1」から「5」までで自分の意見に近いものに○をつけるだけであれば無効な回答は発生しないのではないのでしょうか。

この疑問も理解できる。しかしながらこの調査の各調査項目で、どの選択肢にも○をつけない候補者は存在していた。仮に、どの項目にも○をつけない候補がいたなら、そうした候補はこの調査自体に有効な回答をしたとはみなされない。つまり、こうしたケースは有効回答率の分子に含まれないことになる。

18. 図 7 で自民党候補者の平均位置を出した後に、政党の平均位置についての話に入ったが、政党の平均位置＝候補者の平均位置と捉えてよいのですか。それとも政党の平均位置は各政党の代表者が回答した位置で候補者の平均位置とは別なのか分からなくなりました。

前者の理解で正しい。つまり、政党の候補者の平均位置を、政党の平均位置と定義した。私の説明で曖昧なところがあったのかもしれない。

19. 調査の選択肢の中で自分は賛成か反対かはっきり選べるわけではない場面が多く、「どちらかといえば」という選択肢があったら選んでしまうがこれは日本特有の選択肢なのかと思った。海外でもこのような選択肢はあるのか。

あると認識している（ただし、日本語と外国語で全く同じニュアンスになるのかは、その外国語のネイティブスピーカーに聞かないとわからない）。例えば Groves et al. (2009: 248-249) は、回答者の態度（意見など）を尋ねる際には、その「強さ」も聞くことを推奨しており、この際に、“disagree somewhat”（ある程度同意しない）などのフレーズが用いられる、とする。

※Groves et al. 2009. *Survey Methodology (Second Edition)*. John Wiley and Sons.

20. 前回の講義のリアクションペーパーの紹介で、自分が全く気づいていなかったり、注目できていなかったりした点を指摘している方が多く、とてもためになり面白いなと感じると同時に、自分も表や図をもっと観察し、様々なことを読み取れるようにならなければと反省した。

21. 前回のリアクションペーパーを拝見すると、みんな良いところに気がついており、言われたら確かに不思議に思うことも、自分では見つけることができないので、その力を培っていけるか心配になった。

私としては、他の受講者の RP の記述を読んで参考にしてもらえればと思っている。他方で、他者と比較して自己嫌悪に陥ることもあるかもしれないし、その気持ちは私にもよくわかるが、人間には得手不得手がある（それこそが人間の個性である）ので、むしろ自分と他者との違いを「楽しむ」あるいは「協働に生かす」という発想を持つとよいのではないか、などと思う。